

## 「2024 日本パラオマイクロプラスチック拡散分布調査航海」 イベント企画実施のご案内

### 【概要】

国土の全てを海洋に囲まれている日本で、古来より隣国との全ての交易は、必ず海を渡らなければ成しえないものでありました。私たちにとって、海洋との関わりというのは、生活の根幹であると言いつてもいいかもしれません。

さて今、風だけの力で外洋でヨットを走らせて楽しむセーラーが、日本には数多くいます。そんなセーラーだからこそ見られる“夢”——海を越えて異国の地に思いを馳せる。それは、海で結ばれている国々との現代の海上交易といってもよいでしょう。

私たちは、この“セーラーだけが見ることのできる夢”を実現させるべく、国内外のセーラーとともに「2024 日本パラオマイクロプラスチック拡散分布調査航海」を企画します。このイベントは、外洋クルーザーヨットによる航海のほか、「パラオマリンウイーク(仮称)」というパラオ共和国でのイベントという、二つの大きな柱からなります。各種シンポジウムやフェスティバルを約1週間にわたって展開し、色々な催しを通じてセーラーだからこそできる「未来への海」に関わる提案をしていきます。

---

### 【実施イベント】※2022年3月15日現在の予定

#### (1) 外洋クルーザーによる企画

「マイクロプラスチック拡散分布調査航海」を、以下の海域で展開する

##### ●コース

① 横浜港(神奈川県)～パラオ共和国・ベラウ湾(約1,700マイル)

■スタート 2024年3月10日

② パラオ共和国・ベラウ湾～宜野湾港(沖縄県)沖合(約1,200マイル)

■スタート 2024年4月07日

③ 宜野湾港(沖縄県)沖合～ラグナマリーナ(愛知県)沖合(約600マイル)

■スタート 2024年4月29日

##### ●コンセプト

- クルーザーらによるマイクロプラスチックの採取活動を主体とするものであることから、単なる2点間の移動スピードを競うことだけとはしない
- クルーザーレース部門とラリー部門を設ける
- クルーザーレース部門は、従来のいわゆる「ヨットレース」とほぼ同様の形態を維持する企画とする。ただし全航程において、マイクロプラスチックの採取活動を参加艇の義務とする

d. ラリー部門はレース形式を取るものではなく、主催者が指定する日時までに目的地に入港するものとする。出港地は指定は設けず、各艇の申告によるものとするが、全航程でマイクロプラスチックの採取活動を参加艇の義務とする

●対象ヨット

モノハル(単胴艇) / マルチハル(多胴艇)

●クラス

a. クルーザーレース部門(ダブルハンドクラス / 3名以上の乗員によるクラス)

b. ラリー部門(船舶検査で定められた艇の定員以内)

●参加基準

- ・合法的に上記海域を航行することが可能な艇
- ・当該調査航海の実行委員会が規定する特別規定を満たす艇
- ・航行予定水域全域を填補する有効な賠償責任保険 / 傷害保険に加入していること

●ディビジョン(クルーザーレース部門)

・PHRF

※予定。コース3は、沖縄-東海ヨットレース2024の規定による

●参加料(クルーザーレース部門)

・コース1: 参加料: 250,000円 + 乗員登録料 10,000円 / 1名

・コース2: 参加料: 200,000円 + 乗員登録料 10,000円 / 1名

・コース3: 沖縄-東海ヨットレース2024の規定による

※ラリー部門の参加料は追ってお知らせする

●企画・運営

2024 日本パラオマイクロプラスチック拡散分布調査航海 実行委員会

## (2). パラオマリンウイークによる企画

### ●開催場所

パラオ共和国・ベラウ湾を中心とした周辺海域

### ●内容

- a. マイクロプラスチックの採取活動の結果／中間報告
- b. ジュニア用ヨット(OP クラス) 寄贈事業の経過報告
- c. 調査航海(コース1)の結果報告
- d. マイクロプラスチックを基軸としたシンポジウム
- e. マリンスポーツの紹介イベント

### ●期間

2024年3月29日～4月6日

### ●企画・運営

一般社団法人 日本パラオ青少年セーリングクラブ 催事委員会

### ●協賛機関(予定)

- a. 日本国 外務省／文部科学省／環境省
- b. 駐日パラオ共和国大使館
- c. パラオ共和国
- d. 在パラオ日本国大使館
- e. 国立研究開発法人 海洋研究開発機構

(文責)  
一般社団法人 日本パラオ青少年セーリングクラブ  
新田 肇  
連絡先(E-mail) : [info@jpysc.org](mailto:info@jpysc.org)